

— 修 学 院 離 宮 —

中離宮客殿一の間の霞棚



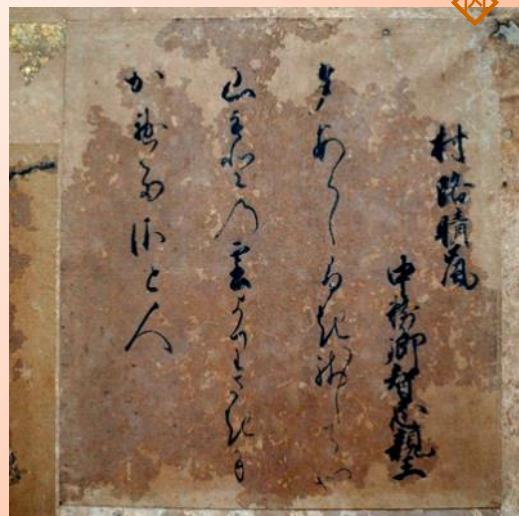
修学院離宮中離宮の客殿一の間北側に

は、天下の三棚の一つに数えられる霞棚があります(他の棚は桂離宮の桂棚(葉其の一にて紹介)、三宝院の醍醐棚)。5枚の棚板が、霞がたなびいているかのように配置されています。棚の幅は、約290センチで、中央の一番長い棚板が144cm、その右上の一番短いものが75cm、板厚はそれぞれ2.5cmで、^{けやき} 檜の板を使用しています。

棚の壁面には、金砂子を雲形に散らしたところに、色紙が貼られていて、「修学院八景」を題材に和歌と漢詩が1編ずつ詠まれています。和歌は公家の歌人などに、漢詩は五山の長老に詠ませたものです。

下記色紙は修学院八景の題材のひとつ「村路晴嵐」を桂離宮中書院などを増築された八条宮家二代智忠親王が詠んだものです。

なお現在霞棚を飾る色紙も含む障壁画は昭和47年に模写したもので、原品は別に保存しています。



村路晴嵐 中務卿智忠親王 夕あらし吹残してや山もとの雲よりさきに帰る里人
(京都事務所保存のものを撮影)